

令和3年度第1回小牧市いじめ問題対策委員会会議録

1 開催日時	令和4年2月21日（月） 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所東庁舎1-1会議室
3 出席	柴田委員長、森委員、吉川委員、楠本委員、中村委員
4 欠席	
5 事務局	中川教育長、伊藤教育部長、石川教育部次長 堀田学校教育課長、加藤管理指導主事、大久保指導主事
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市内の小中学校におけるいじめの現状 (2) いじめ事案における対応の検証<非公開>

<開会 午前10時00分>

1 開会

(石川次長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「令和3年度第1回小牧市いじめ問題対策委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます。小牧市教育委員会事務局学校教育部次長の石川です。よろしくお願いいたします。

<資料確認>

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・資料1 「小牧市のいじめの現状」

・資料2 「令和3年度第1回いじめ実態調査（4月～6月末）の結果」

・資料3 「令和3年度第2回いじめ実態調査（7月～11月末）の結果」

・資料4 「学校別いじめの認知件数一覧」

・別添資料「配席表」

でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。

平成27年度に初めて開催されたいじめ問題対策委員会における議決事項により、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催しております。本日の議題(2)につきましては、実際に市内の小学校で起こった案件でございます。実名等は伏せさせていただきますが、内容から個人が特定される恐れがあるため、議題(1)については公開、議題(2)については、非公開として開催したいと思っております。よろしいですか。

(異議なしの声)

異議なしとのことですので、議題(2)は資料や議事録も含めまして、非公開とさせていただきます。

なお、本日のこの会議の傍聴者は、ございませんでした。

それでは開会にあたりまして、中川教育長よりごあいさつ申し上げます。

(1) あいさつ

(中川教育長)

改めましておはようございます。委員の皆様方におかれましては、小牧市いじめ問題対策委員会を開催いたしましたところ、ご多忙の中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、各方面から子どもたちの健全育成等に関しまして様々ご示唆をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、ここ数年の新型コロナウイルス感染症拡大の関係がありまして、子どもたちの生活もかなり制約を受けるような状況が続き、子どもたちの中にもかなりストレスをためるような状況があるのではないかと私は危惧するところであります。そうした日常生活の中の閉塞感が、ある意味いじめの方向に向かわなければいけないところを常々考えているところであります。

一方で、国が進めるGIGAスクール構想の中で1人1台の端末の配備が進み、SNS等も使用できるような状況がでてきています。このあたりを考えると、やはり情報モラルの指導については喫緊の課題であり、私どもも指導する立場として十分にその情報の収集に努めてまいらなければならない状況にあるということを考えているところであります。

本日につきましては、この1年間のいじめの関係についての報告をさせていただきながら、なおかつ、非公開の部分でいじめ事案についての対応をご検証いただきたいということを思っております。限られた時間ではございますが、委員の皆様方の貴重なご意見をお聞かせいただければと思います。この後、よろしく申し上げます。

(石川次長)

続きまして、柴田委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(柴田委員長)

皆さんおはようございます。名古屋大学の柴田です。

教育長さんのお話にもございましたように、やはりコロナの影響というものがかなり大きく、長く続いています。そんな中で、安定した学校運営というものが非常に難しくなっているのではないかと感じております。そもそも学校は、年次計画を立てて教育課程を安定的に運営するというを長年続けてきていますけれども、年度当初に立てた計画が、行事等も含めて大きく変えざるを得ないことが突然出てくることがあると思います。今年度につきましても、一旦コロナでかなり明るい見通しが見えてきたところで、また年明けからオミクロンのことで多くの学校が影響を受けて、学級閉鎖等も出ていると思います。そうしたことの中で、我慢しながら何とかやるのが当たり前になりつつあり、本当にしんどいことや困ったことというのがなかなか表面に出にくくなってきているのではないかと、そこをやはり懸念しております。

教育委員会はじめ、小牧の学校の先生方、本当に努力しながら、いじめ防止も含めて日々教育活動に当たっておられることに対しては、心より敬意を表したいと思っております。今日の短い時間の議論ではありますけれども、そうしたいじめ対策、いじめ問題の対策を議論することを通して、少しでも皆さんのお役に立てたらよいのではないかと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(石川次長)

ありがとうございました。本日の出席委員ならびに、事務局職員につきましては、お手元にごございます配席表のとおりでございます。

2 議題

(石川次長)

それでは議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。

柴田委員長よろしくお願いいたします。

議題 (1) 小牧市内小中学校の現状について

(柴田委員長)

議題1について事務局の説明を求めます。

<事務局より資料1、資料2、資料3、資料4の説明>

(柴田委員長)

事務局よりいじめの現状について、説明がありました。質問やご意見がありましたらお願いします。

(吉川委員)

ご報告ありがとうございました。いじめの認知に関してですけれども、昨年度、今年度あたりだとCOVID-19に関連するいじめの案件というのがありそうな気がするのですが、例えば感染者やそのご家族、あるいは医療従事者の家族など、そういうことが背景にあるようないじめに関して、もし把握しておられることや数字などの情報がありましたら教えていただければと思います。

(大久保指導主事)

コロナ関連のいじめで上がってきたものは、正直数としてはそれほど多くはありませんが、ワクチンに関したものが上がってきております。子どもたちの中で、ワクチンを打った、打たないということが話題になったようで、打っていない子に対して「危険だからおまえは学校へ来るな」というようなことを言われ、嫌な思いをしたという報告はありました。ですが、コロナにかかったからいじめられたというような報告は受けておりません。

(中川教育長)

補足になりますが、小牧市におきましては、コロナ関連の人権に関する条例を制定させていただいております。その条例については一般市民の方々に周知するだけでなく、市内25校においても、このような条例が制定され、子どもたちだけでなく周りの人々を含めて人権を大切にすることは大事ですよという周知を行っておりますので、それも報告として付け加えさせていただきます。

(柴田委員長)

ありがとうございます。森委員、お願いします。

(森委員)

質問ですが、やはりコロナの関係で、令和元年、2年というのは、教育委員会もそうだと思いますし、学校もそうだと思うのですが、今までよりも特別に対応する業務というのが多かったと推測します。そうすると、やはりいじめに対する取組というところに割く時間が減るのではないかなど、そのあたりがわからないのでお聞きしたいです。逼迫具合というか、学校側あるいは教育委員会が率直にどのような状況だったかを教えていただけると参考になります。

(大久保指導主事)

コロナの逼迫具合ということですが、令和元年度におきましては、2学期までは特に影響はありませんでした。3学期の2月末に突然の休校ということで、そこからは日々対応に追われるという状況でした。子どもたちも登校できず、本当に突然のことだったので、学校体制としてどのようにしていくべきか悩む時期であったことは間違

いありません。

令和2年度に関しましては、まず4月、5月が休校となり、その後も分散登校から始まり、全員が登校できるようになってからも毎日の消毒作業など本来の業務とは別の業務にずっと追われていた1年だったと感じております。文科省から様々な指標が示され、そのたびに新たな対応に追われてということもありましたので、森委員が言われるように、学校が普段以上のことを求められた1年であったと思います。

今年度については、昨年度の経験を生かしてというところもあり、業務自体は例年よりも間違いなく増えていますし、今までの形態とは全く違う過ごし方をしているのは事実ですが、昨年度1年間の経験というものが多少生きているのかなとは考えています。

(森委員)

先ほど、資料1のいじめ認知件数が、令和元年、令和2年と減っているということで、全国とは多少違う動きがあるみたいですが、ただ、今のお話を踏まえると、いじめ自体が減った可能性もあるとは思いますが、やはり取組が少し手薄になったということも踏まえるなら、おかしい推移ではないのかなと思います。

(柴田委員長)

では、楠本委員お願いします。

(楠本委員)

よろしく申し上げます。3点あるのですが、1点目は資料3ですけれども、資料3の2のいじめ認知状況の中で、小学校の上から2段目の「一定の解消が図られたが継続支援中のもの」というのが、すべてが235で定義が130という形で、すべてと定義の乖離が大きくて、他のカテゴリーとは違った傾向を示しているのですが、これはどういうことかというのを教えていただきたいのが1点目です。

2点目は、資料1と資料2、3との比較の問題ですけれども、資料1の場合は、2のいじめ解消率の推移のところで、平成28年度から「解消後支援中」というカテゴリーが斜線となっています。このカテゴリーではカウントしなくなったということだと思うのですが、資料2、3を見てみると、いじめの認知状況のところでは、まだ「一定の解消が図られたが継続支援中のもの」というカテゴリーが残っていて、そのそこはどういうことなのかを教えていただきたいというのが2点目です。

3点目は、資料2、3のところの4番の、学校が行ったいじめ問題に対する日常の取組というところですが、数字を見させていただくと、ほぼすべての小中学校で行っている取組と、ほぼすべての小中学校が行っていない取組があるわけですが、その行っていない取組の中で、何か小牧市のいじめ問題を考えるにあたって、こういうところはもう少し力を入れて取り組んでいったほうがよいかなと思われるところがありましたら、そのことについて教えていただきたいと思います。この3点になり

ます。よろしくお願いします。

(大久保指導主事)

まず最初の小学校の一定の解消が図られたが継続支援中のものの数の乖離という部分ですが、こちらにつきましては、担当者と話をしたときによくお聞きするのが、低学年、中学年あたりでは事実がはっきりしないものがよくあるということです。何となく嫌な思いをしているような気になっているけれども、細かく聞き取りを行っていても結局相手や事実がはっきりしないことがけっこうあるそうです。嫌な思いをしているのですべての件数には入れるのですが、相手などもはっきりしないので定義からははじしておこうということで、数が結構変わってしまう。小学校ではそういったことが多いとは聞いています。

(楠本委員)

それが資料2の場合はすべてと定義の間にほとんど乖離がないのですが、資料3、つまり2学期になるとここで急増するのはどういう理由でしょうか。

(大久保指導主事)

すみません。ここに関してははっきりとはわからず、私も把握できていません。おそらくですが、1学期の時にはまだ先生との関係も深まっておらず、子どもたちも言い出しにくい部分もあるのかもしれませんが、2学期になり、先生との関係も深まり話しやすくなるというのがあると思いますが、友達との関係が深まることで生まれる様々な感情という部分もあり、数が増えているのかなと思います。これはあくまでも想像でしかありませんが、自分自身の経験からそのようなことは起こりえるかなと考えております。

(楠本委員)

そういう傾向というのは、令和3年度だけではなく、それ以外の令和元年度や2年度でも同じ傾向はあるのでしょうか。

(大久保指導主事)

すみません。そこに関しては過去の資料をもう一度見直してみないとわかりません。確認しておきます。

(楠本委員)

わかりました。よろしくお願いします。

(大久保指導主事)

続いて、いじめの解消率の推移の解消後支援中のところが斜線になっている部分で

すが、資料2、3につきましては、これは市独自に行っている調査の結果となっております。資料1は諸課題調査の結果をもとに作らせていただいております。

諸課題調査は文科省が行っている調査となっております。そちらに解消後支援中という項目がなくなったものですから、資料2、3と資料1の調査でこのような表記になってしまっています。

(楠本委員)

そうすると、市独自の方では解消したが支援中のものと答える欄があり、現場からはそのような答えが出てきているわけですね。

(大久保指導主事)

そうです。

(楠本委員)

それを資料1に振り分けるのは、どなたがどのような形で振り分けているのでしょうか。この支援中のものというカテゴリーのものを、解消にするのか、指導中にするのか、どなたがどのような基準で振り分けていらっしゃるのでしょうか。

(大久保指導主事)

最終的には担当者と担任で話し合ってもらい、これを完全に解消として報告してもいいのか、それともまだ指導中で解消とはいえないとするのかを決めていただいています。

(楠本委員)

現場の方で分けてもらっている。

(大久保指導主事)

はい、現場です。

(楠本委員)

それではこのいじめの調査は、小牧市にあげるものとこの資料1にあげるものとは別に聞いているということですか。

(大久保指導主事)

もちろん、市独自の調査を基に作ってもらっています。この数を基に資料1の調査を作らせていただいておりますが、今質問のあった部分については、最終的には振り分けを必ず行わなければいけないものですから、そこの数字をどちらに振り分けるかについては現場で決めていただいています。

(楠本委員)

現場でやってもらっている。わかりました。ありがとうございます。

(大久保指導主事)

最後の、学校が行ったいじめ問題に対する日常の取組のところですが、こちらはまだ教育員会として具体的に何かということは考えておりませんが、やはり児童生徒からいじめ問題について考えさせることは大切だと考えております。児童会や生徒会、そうしたところでもいじめについての話が取り上げられるとよいのではないかと考えておりますので、そうしたところに今後力を入れていきたいと考えております。

(楠本委員)

どうもありがとうございました。

(柴田委員長)

ありがとうございました。他いかがでしょうか。中村委員、よろしくお願いします。

(中村委員)

アンケートで把握するのが一番多いということですが、そのアンケートというのは共通したものなのでしょうかということと、ボリュームや行う時期、やり方などはどのようにしてみえるのでしょうか。

(大久保指導主事)

時期はこちらで指定させていただいております。各学期末のこの約2週間の中でアンケートを行ってくださいという時期を決めて、学期に1回アンケートをとってもらっています。

アンケートの内容については、基本的な形はこちらから指定をしていますが、そこに各学校で設問を付け加えておりますので、すべてが同じではないです。このような形でアンケートを行っております。

(中村委員)

項目は答えやすいものになっているのか、自由回答が一番多いのかかもしれませんが、どのような感じですか。どのように把握しているのか。

(大久保指導主事)

具体例でいいますと、あなたは最近嫌な思いをしましたか、友達から嫌な思いをさせられたことがありますかという設問や、あなたは、友達がそのようなことをされているのを見たことがありますかなど。その他に、あなたは相談できる友達や先生がいますかや、今悩んでいることはありますかなど。いじめだけではなくて悩みや相談し

たいことはありますかという内容ももう少し細かく聞いています。おおよそこのような内容になっています。

(中村委員)

そこにチェックが入った子には、個別にいろいろ聞いていくということ。

(大久保指導主事)

アンケートだけではなく、必ず相談活動もしていますので、そのアンケートを基にして子どもたちと話をし、悩みやいじめについて聞き取りをしております。

(中村委員)

それは全員ということですか。

(大久保指導主事)

はい、全員です。

(柴田委員長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。私の方からですけれども、今出ている一定の解消が図られたが継続指導中のもの、特に小学校ですべてと定義の開きが大きいということがありますので、過年度も調べていただき、そういうことを原因の把握や何らかの対策に役立てていただくといいのではないかと思います。

また、この会議でもそういうアンケートとか、その取り方ということについても議論できたらいいと思いますので、そういった資料などもご提示いただけたらいいのではないかと思います。それから、今のやりとりの補足ですけれど、いじめアンケートとは別に、定例で全員に教育相談をすることになっているわけですね。

(大久保指導主事)

はい。

(柴田委員長)

そのタイミングの前にアンケートをとるので、そこで気になる回答をした児童生徒さんに対しては、その場で聞き取りができるということですね。

(大久保指導主事)

はい、そうです。

(柴田委員長)

そうすると、アンケートで一人だけ長く回答していると周りにわかってしまうなど

の、そのような心理的プレッシャーのない中で、そのときは気軽にチェックだけ打ち、後で聞いてもらえる機会があるということですね。

(大久保指導主事)

はい、機会があります。

(柴田委員長)

そのような配慮もして、できるだけ本音が学校に伝わりやすい方法でやってくださっているということですね。

(大久保指導主事)

はい。

(柴田委員長)

わかりました。ちょっと確認まででした。その他、いかがでしょう。

(森委員)

先ほどから話題に出ている、7月から11月の一定の解消が図られたが継続支援中のもののすべてと定義のこれだけの乖離についてですが、過去の資料を持っているのを見たのですが、ここまで開いているものはないんです。100くらい開いていますけれども、大体4月から6月は開きが4ですよね。10前後なんですよ。

(大久保指導主事)

はい。

(森委員)

そうすると、100くらい開いているのはちょっと異常なので、集計ミスなのか原因があるのか、ここは確かに気になります。

(大久保指導主事)

ここは確認しておきます。ありがとうございました。

(柴田委員長)

ありがとうございました。小学校のアンケートのところもそうですよね。11月のところで開きが大きいので、集計の仕方を変えたか、何かあるかもしれないので、調査をしていただくということをお願いします。その他よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

議題（2）実際のいじめ事案における対応の検証

<非公開>

3 その他

（柴田委員長）

その他について事務局よりお願いします。

（大久保指導主事）

特にありません。

（柴田委員長）

それでは、議事については終了しました。事務局にお返しします。

（石川次長）

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。本日は、非公開の議題（2）も含めて、大変貴重なご意見を多数お聞かせいただきました。今後の参考にさせていただきます。

それでは、これをもちまして、小牧市いじめ問題対策委員会を閉会いたします。

<終了>